

ECONOMIST
IMPACT

アジア太平洋地域の観光業を再構築： コンシャストラベラーとは？

提供



はじめに

エコノミストインパクト作成、Airbnb 提供の本資料は、アジア太平洋地域における観光業の復興について調査した報告書です。本報告書では、「コンシャストラベラー」の増加により旅行がどのように変化する可能性があるかを考察します。本報告書は、広範な机上調査と、アジア太平洋全域の 4,500 名以上の旅行者を対象に実施したアンケート調査に基づいています。執筆者は Siddharth Poddar、編集者は Pratima Singh です。

ご協力いただいた次の方々には、この場を借りて感謝の意を表します。

- Soity Banerjee (フリーランストラベルライター、Outlook Responsible Tourism Initiative プロジェクトエディター)
- Gaurav Bhatnagar (The Folk Tales ディレクター)
- Rachel Dodds (Sustaining Tourism ディレクター、ライアソン大学教授)
- Randy Durband (Global Sustainable Tourism Council 最高経営責任者)
- Philip Goh (国際航空運送協会アジア太平洋地区担当バイスプレジデント)
- Freya Higgins-Desbiolles (南オーストラリア大学ビジネススクール観光マネジメント講師)
- Seul Ki Lee (LINC+ Project ディレクター、世宗大学准教授)
- Liz Ortiguera (太平洋アジア観光協会 CEO)

目次

- 4 概要
- 7 アジア太平洋地域の観光業を再構築: コンシャストラベラーとは?
 - 7 「コンシャストラベラー」とは誰か?
 - 9 オーバーツーリズムは二の次
 - 10 一時的な流行を超えて
 - 11 定番のコースを避ける旅行者たち
 - 12 地域社会中心の旅へのアプローチ
 - 14 「持続可能な旅行」の意味を拡張
 - 16 旅行の形を変えるテクノロジー
 - 17 サステナブルなイノベーションの促進
 - 18 選択肢を増やすテクノロジー
 - 19 旅行の未来
 - 19 政府が主導するサステナブルな変革
 - 20 善意に基づく道

概要

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は多くの点において旅行を変化させました。コロナ禍が始まって以来、人類の生活や社会は計り知れない影響を受けており、旅行者の間でも休暇旅行が地域社会や地域経済、環境に及ぼす影響についての意識の高まりが見られます。こうした議題は過去数年間も取り上げられていましたが、コロナ禍は旅行の領域にある種の目覚めをもたらし、アジア太平洋地域において、より意識が高く、責任ある旅行を目指す流れを加速させています。

アジア太平洋地域(オーストラリア、日本、インド、マレーシア、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾、タイ)の4,500名以上の旅行者を対象に、エコノミストインパクトが行ったアンケート調査では、10人中7人以上(71.8%)が、新型コロナウイルスの流行を機に、持続可能な観光に対する考え方が変わり、自分にとって以前よりも重要になったという点に同意しています。

この調査において、「持続可能な観光」とは、観光エコシステムのすべての利害関係者にとって、社会、経済、文化、コミュニティ、環境の面で良い結果をもたらす行動を指します。

その数がより顕著になっている国もあり、フィリピンでは回答者の98.5%、インドでは96.5%、マレーシアでは93.5%が、コロナ禍により持続可能な観光に対する考え方が変わったと回答し、5分の4を優に上回る人々が持続可能な観光の仕組みの必要性を認めています。

コンシャストラベルがさらに進む時代の幕開けを目撃できるのでしょうか¹。今回のアンケート調査結果は確かにそう示唆しており、半数をはるかに上回る(57.1%)回答者が、特に観光は地域経済、社会、文化、環境に関わるので、観光や持続的に観光を行う方法について以前とは異なる考え方をしていると回答しています。

注目を集める「コンシャストラベル」

回答者の大多数は、自分たちの旅行が地域住民に良い影響を与えることが重要だと回答しています。データをさらに詳しくみると、旅行者の57%がオーバーツーリズムの原因になりたくない¹と回答し、69.9%が混雑した観光地への旅行は避けたいと思うと回答しています。混雑した空間を避けられる場所を訪れる可能性が高いという回答も同等の割合(71.7%)に及びます。

¹ 本調査では、「コンシャストラベル」と「持続可能な旅行」という言葉は同義で用いられています。

旅行業界の専門家は、人が少なく広々とした場所を訪れたいという旅行者の明確な願望を理解しており、専門家とのインタビューではこの点が繰り返し指摘されてきました。そのため、観光客にあまり人気のない地方をもっと訪れてみたいという回答が49%にのぼることは驚くに値せず、国内旅行の機会を増やしたいという傾向とも必然的に重なります。

今回のアンケート調査では、今後は旅行予算のかなり多くの部分が国内旅行に向けられることが示されています。回答者の57.6%が、定番のコースとは違う旅を求めて国内旅行に割り当てる予算を増やすと答えています。このような形にとられない旅行スタイルは、観光サービスや旅行先のラインアップの多様性に影響を及ぼし、人気観光地への負荷を軽減できる可能性があります。

この新たな焦点の一部は、多くの旅行者の間で、景気回復を必要とする訪問先の地域社会を考慮したり、お金の使い道を考えたりすることの必要性に対する意識の高まりを反映しています。

重視されているのは、経済や暮らしだけではなく、ほぼ3分の2(63%)が、他のコミュニティや文化と有意義なつながりを持つ手段として旅行を利用したいと考えています。このような旅行者は、地域社会が必要とするものをより意識的に理解することを望んでいます。

持続可能性の全体的な理解

観光における持続可能性について語られるとき、使い捨てプラスチック製品の使用中止や二酸化炭素排出量の削減など、環境に関する側面が強調されがちです。しかし、今回のアンケート調査からは、アジア太平洋地域の旅行者は、旅行における持続可能性について全体的な視点で考えることが明らかになりました。例を挙げると、持続可能な観光の最も重要な側面は何であるかとの質問に対して、経済的な側面(46.7%)と社会的な側面(41.3%)との回答が上位に入り、環境(32.1%)、文化(31.6%)、地域社会(21.5%)への配慮を上回ったのです。

この過去に例のない時代が訪れるまで、旅行業界は、顧客も企業も、主に経済や環境を軸に持続可能性の問題を考えていました。しかし、旅行者が地域社会、経済、文化、伝統のニーズを考慮してよりよい選択をするにはどうすればよいかも考えていることが次第に明らかになっています。

このことは、旅行者が心躍る体験への欲求と、より大きな生態系に及ぶ可能性がある影響とのバランスを取るうとする、再生型観光の到来と考えることができるかもしれません。

テクノロジーが支える持続可能な旅行

テクノロジーは基本的な技術であれ新しい革新的な技術であれ、旅行の行動や慣習を形づくり、より持続可能な観光の実践を目指す動きを強力にサポートしていることが、今回の調査でわかりました。実に回答者の86.9%が、テクノロジーは持続可能な観光を可能にしている、または可能にできるという点に同意しています。

旅行会社がより持続可能な仕組みを採用できるのも、旅行者がより多くの情報を得たうえで選択できるのも、持続可能なコンシャストラベルを可能にしているのはテクノロジーです。これにはさまざまな形がありますが、一般的なことでは、旅行会社や旅行者がテクノロジーを利用して情報を広めたり、ほぼ瞬時に情報を入手したりすることも該当します。

今回のアンケート調査によると、回答者の約半数(43.1%)が、テクノロジーがさらに多くの地域の利害関係者に恩恵をもたらすことができれば、観光はよりインクルーシブな産業になれると回答しています。

テクノロジーは、今後数年でより持続可能な旅行の仕組みを支える優れたツールになる可能性があります。そして、新型コロナウイルスを機にこうしたテクノロジーの導入が進み、旅行の未来がどのようなものになるかが少し見えてきました。

旅行の未来

多くの旅行者は自らが選択した旅行がもたらす影響について深く考えており、過半数(54.5%)が、持続可能な仕組みを支える旅行サービスに対しては料金を割増で支払う意志があると回答しています。逆に、持続可能性に関連する問題に対処できない旅行先なら避けたいとする旅行者も同程度います。

今回のアンケート調査からは、旅行で何を選択するかをより意識したいと考えていることが明らかになりました。しかし、そうした意志を現場での実際の変化に結びつけるには、旅行者から旅行会社や地方自治体まですべての利害関係者の深い関与を必要とします。コンシャストラベルを選択するという行為は、他の要素を考慮せずに行うことはできません。というのも、そうした決定は、交通、宿泊、食事や廃棄物管理、企業のコミットメントから持続可能な仕組みにいたるまで、どのような選択肢があるかに関係するからです。

だからこそ、行政機関や事業者は業界の再構築において積極的な役割を果たす必要があります。この点については、変化への明るい兆しがあります。アジア太平洋地域には、利害関係者との関係強化、コミュニケーションの改善、計画立案において中心的な役割を担っている政府機関が存在するからです。

しかし、古くからの習慣はなかなかなくなりません。コロナ禍の影響が弱まり、その記憶が薄れたら、旅行者は昔の習慣に再び戻ってしまう可能性があります。

アジア太平洋でコンシャストラベラーが増えている今こそ、包括的で持続可能な方法で観光業を再構築する機会なのです。このチャンスを無視してはなりません。

アジア太平洋地域の観光業を再構築:コンシャストラベラーとは?

観光や旅行は、地域社会や経済を開放し、自分たちの世界だけでなく、互いに対する理解を広げるにより、現代を定義するうえで主要な役割を果たしてきました。所得の増大、格安航空会社の急増、新たな旅行先に関する情報の普及におけるテクノロジーの役割、これらの要素が旅行熱をもたらしました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延により国外旅行の扉が閉ざされると、活況を呈していた業界に大きな影響が及びました。世界の全地域で国外からの旅行者数の急落を記録する中、最大の打撃を受けたのがアジア太平洋地域で、2020年の旅行者数は2019年比マイナス82%と大幅に減少しました²。

旅行や観光産業が主要な成長の原動力であり、雇用創出の元になっていた地域にとって、これは壊滅的な数字です。Liz Ortiguera氏(太平洋アジア観光協会 CEO)によると、アジア太平洋地域の観光経済は世界一の成長速度を誇り、地域の全体的なGDPの約10%を占め、2019年には1億8,000万以上の雇用創出に貢献しています。

「コロナ禍でも、アジア太平洋地域が旅行業界最多の雇用者数を抱える地域であることに変

わりはなく、世界の旅行観光従事者の55%を雇用しています」と彼女は言います。

しかし、新型コロナウイルスの出現は、私たちがまだ理解し始めたばかりの業界全体を見直すきっかけとなりました。

「コンシャストラベラー」とは誰か?

「旅行者」がどのようなものなのかという認識が変化してきました。「私が最近行った調査によると、旅行者には3つのタイプが存在します。まず、まったく気にしない人々がいます。次に、簡単なことならする人々がいます。そして最後に、『サステナブルツーリスト』がいます」と、Rachel Dodds氏(Sustaining Tourism ディレクター、ライアソン大学教授)は説明します。「サステナブルツーリストとは、自分の信念や価値観に従ったり、それが正しい行いだからという理由で、自らの行動様式を変化させる旅行者です」

持続可能な観光は単なる流行語ではなく、経済、健康、文化、社会の視点から、旅行が地域社会に良い影響を及ぼすにはどうすべきかを考えるアプローチです。

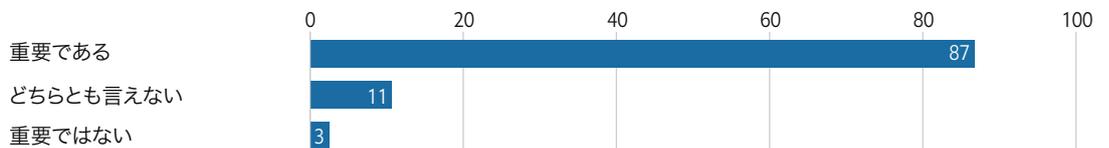
² <https://www.weforum.org/agenda/2021/05/covid-19-travel-tourism-virtual-reality/>

現在、持続可能な観光を巡る議論が注目を浴びています。エコノミストインパクトがアジア太平洋全域の 4,500 名以上の旅行者を対象に実施したアンケート調査³では、回答者の半数以上

(52%)が、持続可能な観光は自分にとって非常に重要であると回答しており、まったく重要ではないと回答したのは 2.5% に過ぎませんでした。

図 1: 今話題の「コンシャストラベル」

持続可能な観光はあなたにとってどの程度重要ですか? 1つ選択してください。(%)



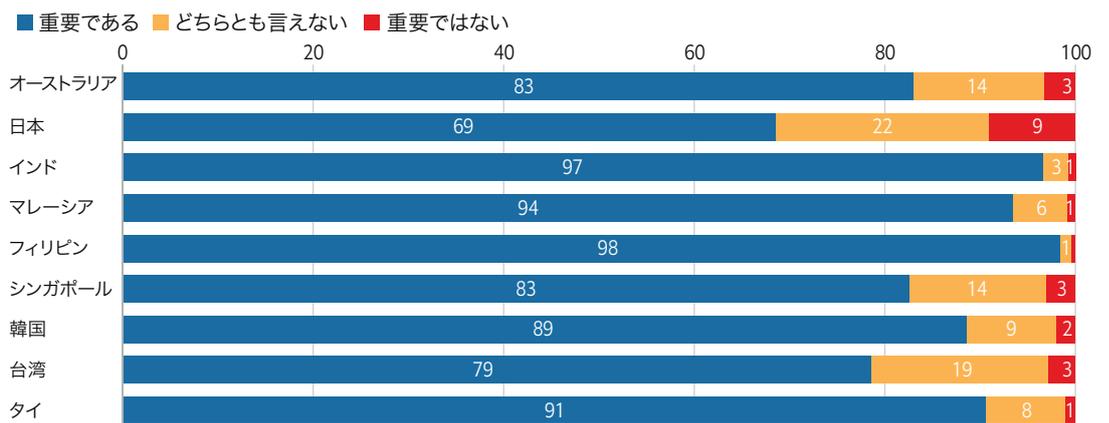
出典: エコノミストインパクト

しかし地域の中でも差があり、フィリピン (80.2%)とインド (78.6%)では、持続可能な観光は自分にとって非常に重要だと答える旅行者の割合の方がはるかに多いなど、持続可能

な観光の考え方 (およびそれに対する個人の理解) は一律に当てはめることはできないという Dodds 氏の見解が反映されています。

図 2: 地理的な違いを超えるコンシャストラベルへの欲求

持続可能な観光はあなたにとってどの程度重要ですか? 1つ選択してください。(%)



出典: エコノミストインパクト

同様に、世代間にも相違が見られます。ミレニアル世代の 62.1%、Z 世代の 55.5% が持続可能な観光は「非常に重要」と答えたのに対し、同じように考えるベビーブーム世代は約 3 分の

1 (33.6%) にとどまりました。ただし、ベビーブーム世代にとって持続可能な観光はまったく重要でないということではなく、この世代の 44.4% はある程度重要だと考えています。この

³ 2021 年 10 月、エコノミストインパクトは、オーストラリア、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾、タイの 4,500 名以上を対象に調査を行いました。回答者は複数の年齢層から抽出されており、半数がミレニアル世代と Z 世代、残りの半数が X 世代とベビーブーム世代です。

明らかな差は、気候変動などの問題に対する世代間の意見の相違の現れでしょう。しかし、コロナ禍が旅行に対する考え方を変えたかどうかという点については意見が一致しています。

アンケート調査回答者の10人に7人(71.8%)が、コロナ禍を機に、持続可能な観光に関する考え方が変わったと回答しています。特に、インド(89.3%)、フィリピン(85%)、マレーシア(83.9%)でこの傾向が顕著です。

オーバーツーリズムは二の次

持続可能な観光への方向転換が大きく進む中、旅行者の意識はどこにどのような手段で旅

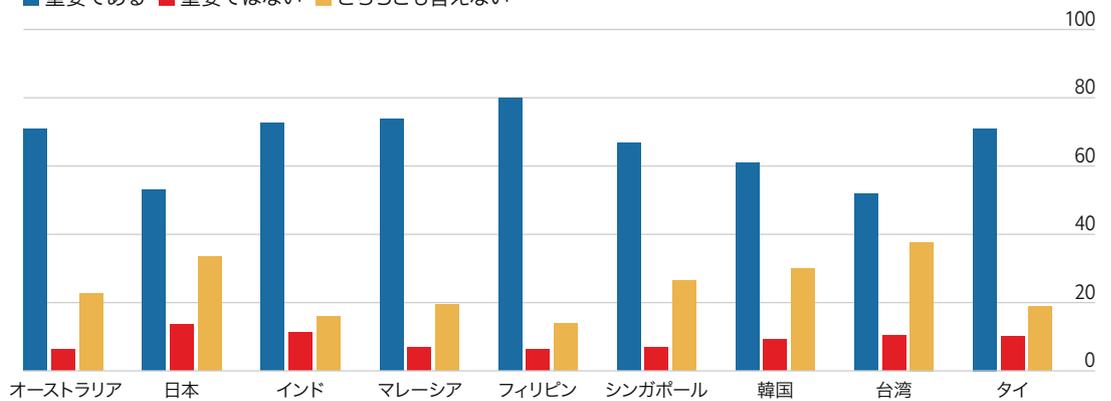
行するかに向くようになっていきます。環境や経済への影響から、国外旅行がその土地の生活に与える影響まで、持続可能な観光には多くの側面があります。訪問先の地域社会に旅行がどのような影響を及ぼしているかに関しては、持続可能な観光は良い影響を生み出します。

この点が旅行者の心を大きく占めているようです。回答者の3人に2人(66.8%)以上が、旅行の計画を立てるうえで地域住民に対する良い影響を与えることが重要な要因になると答えています。この問題について最も関心があるのはフィリピンの旅行者(80%)で、次にマレーシア(73.7%)、インド(72.7%)が続きます。

図3: 大切なのは地域住民

地域住民に良い影響をもたらすことはどの程度重要ですか? (%)

■ 重要である ■ 重要ではない ■ どちらとも言えない



出典: エコノミストインパクト

オーバーツーリズム(観光地に観光客が押し寄せ、連鎖的に他の問題が発生すること)に対しては、コロナ禍以前から強い懸念が示されていました。旅行者もこの点について考えていることは、今回のアンケート調査からも明らかです。調査回答者の半数以上(57.6%)は、自分の旅行がオーバーツーリズムの原因にならないようにすることが重要であると回答していますが、

中でもタイ(66.3%)、台湾(63.9%)、韓国(63.1%)の旅行者の間では特別に関心の高い問題になっています。

オーバーツーリズムを解消すべきだという声が圧倒的であるにもかかわらず、問題の解決まで「まだ長い道のりだ」と Soity Banerjee 氏(独立系トラベルライター、Outlook Responsible

Tourism Initiative プロジェクトエディター)は述べています。

「人気観光地でのオーバーツーリズム、ゴミや水の問題や、一般的な認識の高まりのおかげで、観光客はゴミや乾燥廃棄物を持ち帰るなどの小さなことを受け入れ始めています」と彼女は言います。

さらに、「しかし、持続可能な解決策を調整し、場所の構造を変えることなく社会的または経済的によりインクルーシブな観光を実現するには? 持続可能な観光の強力なエコシステムを生み出し、より多くの支持者を見つけるには、多くの時間、政治的な意志、集中的なコミュニケーションが必要です」と付け加えます。

一時的な流行を超えて

生態系への懸念や新型コロナウイルスの政策は、人々の意識改革にも大きな影響を与えています。内省もそうかもしれません。Randy Durband 氏 (Global Sustainable Tourism Council 最高経営責任者) は次のように述べています。「コロナ禍の間、私たちの生活は変わり、思考プロセスが変化しました。物事の全体像について考える時間があつたのです。自問自答をたくさん行い、旅行もその一部でした」

Freya Higgins-Desbiolles 氏 (南オーストラリア大学ビジネススクール観光マネジメント講師、テイラー大学客員教授、ウォータールー大学非常勤准教授) は、環境問題をきっかけに、多

くの人々が自分の旅行がどの程度持続可能なものであるかを考えるようになると述べています。

「ここオーストラリアでは、2019 年末に大規模な森林火災があり、その後すぐパンデミックに突入しました。大規模な高層ビルに住んでいるなら、公園や緑地スペースに行けることに価値を感じるでしょう。コロナ禍のおかげで、ロックダウンもあり、人々は以前よりも自然を大切にするようになりました」とも言います。

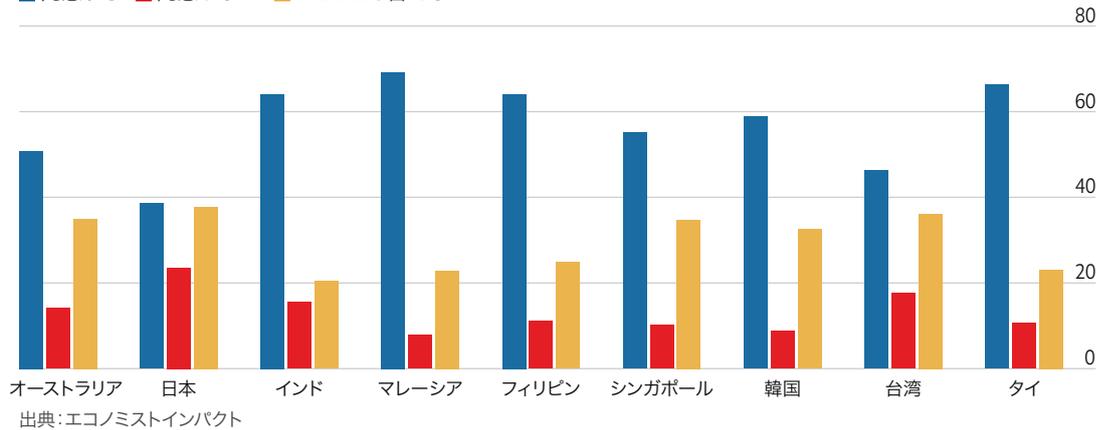
PATA の Ortiguera 氏は、持続可能な観光への方向転換は、コロナ禍以前から水面下でかなり進んでいたと考えています。彼女のケース、コロナ禍は「現代社会の弱点や、旅行観光業界が取り組まなくてはならない数々の問題を浮き彫りにした」だけだと言います。

今回のアンケート調査から、持続可能な観光は一時的な流行にとどまらないことがわかります。回答者の半数以上 (57.1%) が、休暇の計画に持続可能な観光の実践を組み込むと答えており、そのような考え方はマレーシア (69.2%) とタイ (66.3%) の回答者の間で特に多く見られます。アジア太平洋の他の国々と比較すると、日本の回答者は持続可能な観光に関する諸問題について通常の分布から大きくはずれていません。日本人は国内よりも国外の旅行を好む傾向があり、次に休暇をとるとき、持続可能な観光の実践を組み込むと答えた人は 38.6% にとどまりました。

図 4: ひと味違う次の休暇

休暇の計画に持続可能な観光の実践を組み込もうと思う (%)

■ 同意する ■ 同意しない ■ どちらとも言えない



定番のコースを避ける旅行者たち

Ortiguera 氏によると、コロナ禍は、オーバーツーリズムを減らし、雇用創出や観光消費による経済的恩恵を分散させる一方、これまで多くの訪問者を集めてきた観光地以外の旅先との出会いを支援することで、偶然にも多くの明るい兆しを生み出しています。

「地方へのアクセスが改善されれば、自然資源や文化遺産を保護することで、地域社会や観光地全体の生活の質を上げることができます」と彼女は言います。

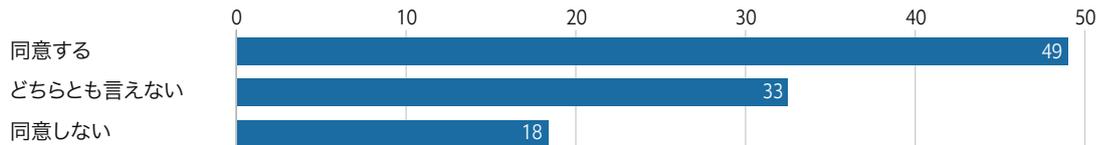
Gaurav Bhatnagar 氏 (インドで地方旅行体験を提供する The Folk Tales のディレクター) によると、新型コロナウイルスの影響は、見方によれば、「旅行のスタイルや、天然資源や製品の消費速度など、持続不可能なライフスタイルの副産物」だと言います。

「この意外な新事実は、当社の顧客 (旅行者) との会話からも明らかです」と彼は言います。そして彼らは今、地方の魅力を発見してオーバーツーリズムに取り組むことを一層重視しています。「その理由の 1 つがソーシャルディスタンスを自然に維持できること、もう 1 つは再生できる以上に天然資源を使わないことです」

そのため、アジア太平洋地域の旅行者の間で、定番の人気旅行地ではない地方の目的地を見つけ出すことにあらためて注目が集まっているのは驚くに値しません。今回のアンケート調査では、回答者の 2 人に 1 人 (49%) が、あまり観光地化されていない地方での体験をもっと追求したいと考えています。タイの旅行者は特に熱心で、59.2% がもっと地方を頻繁に訪れたいと答えています。

図 5: 脱大都会

観光客にあまり人気のない地方をもっと頻繁に訪れてみようと思う (%)



出典: エコノミストインパクト

年齢層別では、ミレニアル世代の 53.4%、Z 世代の 50% が地方を頻繁に訪れたいと答えた一方、ベビーブーム世代が都会以外で休暇を過ごしたいと答えた割合は 37% でした。この理由として、シニア世代が必要とする施設や快適な環境が十分に整備されていないことや、特にコロナ禍では、確かな医療基盤がある旅行先を訪れたいという希望があることが考えられます。

新型コロナウイルスの流行による安全、健康、環境への懸念から、地方旅行に対する関心がすでに急激に高まっています。2020 年、ベトナム政府は格安な航空運賃で国民に国内旅行を奨励し、小規模企業を支援するキャンペーンを実施しており⁴、その過程で地方観光が活性化されているはずで、同様にタイ国政府観光庁は、2020 年に地方観光アワードを開始し、文化や伝統の保全に取り組む地域社会への投資ファンドを立ち上げました⁵。

この種の取り組みは、観光収入という新たな収入源を確立することで、コロナ禍で深刻な打撃を受けた地域社会や政府機関にとって利益になる可能性があります。

オーバーツーリズムの議論は、新型コロナウイルスによるリスクが増大したことでより複雑な新しい局面を迎えており、多くの人々が人気の高い観光地を意識的に回避するに至っています。

「観光客が戻り始めたら、ソーシャルディスタンスと個人レベルの衛生対策が重要な要素になり得ます」と Philip Goh 氏 (国際航空運送協会 (IATA) アジア太平洋地区担当バイスプレジデント) は述べています。今回のアンケート調査では、10 名中 7 名 (69.9%) が混雑していない観光地を訪れる可能性が高いと回答しており、71.7% は混雑する観光地への訪問を避ける選択肢を探す可能性が高いとも答えています。

地域社会中心の旅へのアプローチ

しかし、持続可能な旅行に重要なのは混み具合だけではありません。観光が地域社会にどのような影響を与えるかも考える必要があります。今回のアンケート調査では、旅行者の中で、自分の出費がコロナ禍で経済的に苦しんでいる地域社会をどのように支援できるかという意

⁴ <https://www.adb.org/news/op-ed/domestic-tourism-southeast-asia-opportunities-and-pathways-matthias-helble-and-jaeyeon>

⁵ 同ページ。

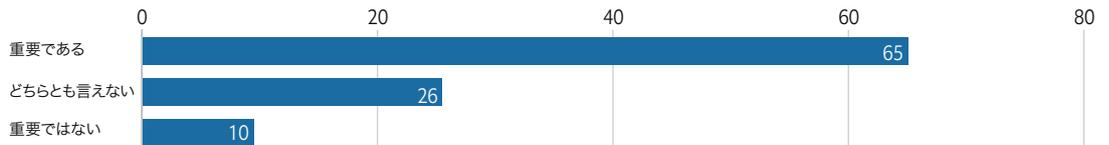
識が高まっていることがわかります。回答者の半数以上は、旅行の計画や予算を立てるときに地域社会の経済回復を考慮に入れると答えており、60%以上が、将来旅行先や旅行のスタイルを決定する際にこれらの問題は重要な要素となると答えています。

Bhatnagar氏は、「旅行者は、地域住民に直接的な利益をもたらすホームステイやアクティビティを具体的に依頼してきます。これは大きな転換です。なぜなら、旅行者が何を求めるべきかを自覚し始めているからです」と言います。

たいていの回答者(65.1%)にとって、地域経済に積極的に貢献することは非常に重要です。こうしたコンシャストラベラーは、地方社会や地域社会に貢献するだけでなく、その土地に暮らす人々と有意義な関係性を構築する手段として地域の文化を学び、文化に親しみたいという希望も表明しています。旅行者の10人に約6人(59.5%)が、地域の人々の役に立ちたいと答える一方、他のコミュニティや文化とつながる有意義な手段として旅行を活用することが重要だとする回答も63.3%あります。

図6: 地域社会に配慮する

旅行をするとき、地域経済に貢献することはどの程度重要ですか?
(%)



出典: エコノミストインパクト

旅行を通じて有意義な関係を構築し現地の文化について知ることは、特にインド(74.8%)とフィリピン(74.2%)で上位に入っています。オーストラリアの回答者は、互いに連帯し合うという観点から、地域社会を支援するつもりで旅行するという考え方に同意すると回答した人が圧倒的です。4分の3以上(77.5%)は、今後は地域経済に貢献できる旅行のシステムを取り入れたいと回答しています。

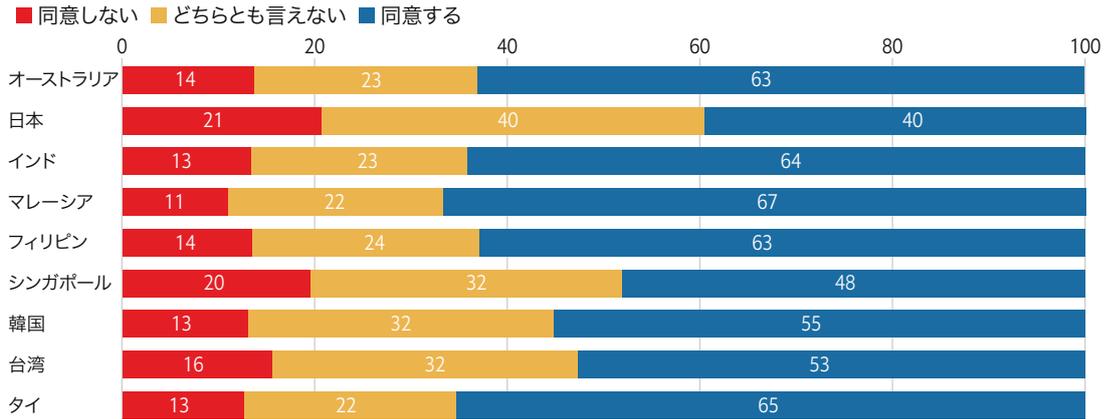
Higgins-Desbiolles氏によると、こうした行動はオーストラリアのコロナ禍の経験から生まれたのだといいます。長期化した移動制限はオーストラリア人の間で広く受け入れられており、その中の多くの人々が「地域内をたくさん旅行し、

お金を使い経済を活性化させて仲間のオーストラリア人を支援」することを望んでいます。

今回のアンケート調査では、旅行者の半数以上が次の休暇ではコロナ禍前と比べて同等またはそれ以上の出費をする予定であることがわかりました。さらに、回答者の57.6%が国内観光への支出を増やす予定だと答えています。マレーシアの回答者の3分の2(66.7%)が国内旅行を増やすと答えており、タイの回答者の65.3%、インドの回答者の64.1%もこの意見に似ており、ミレニウム世代の過半数(60.3%)と小さな子供を持つ親も同じように国内旅行を増やすと回答しています。

図 7: 好まれるのは国内旅行

今後は従来よりも国内旅行の回数を増やし、自国内の旅行に割り当てる予算を増やそうと思う (%)



出典: エコノミストインパクト

しかしながら、こうした意見の多くは意向の表明であると考えられます。Durband 氏によると、現実には、個人の好みや状況によって、多種多様な反応があるそうです。旅行者は、国内旅行推進派と、国外旅行推進派という 2 つの対抗勢力の間に挟まれることになるでしょう。

「国境の大部分が封鎖されたため、国内観光が今ちょっとしたブームを迎えているのです」と Goh 氏は述べています。

「持続可能な旅行」の意味を拡張

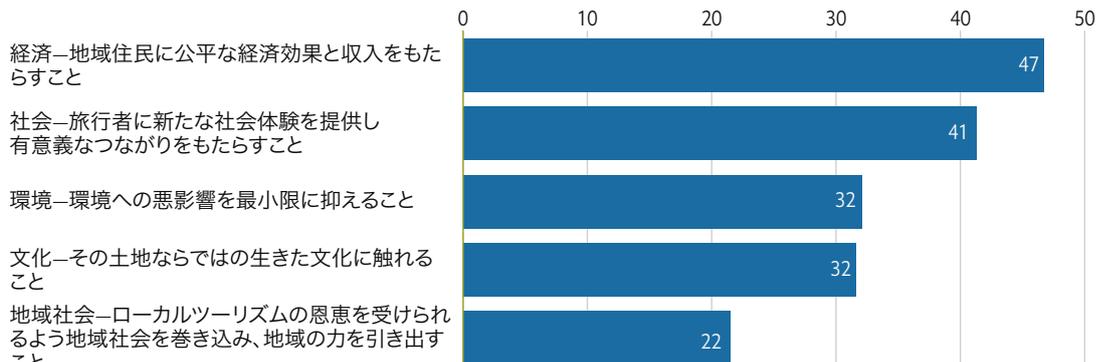
持続可能性は、使い捨てプラスチック製品の使用中止や二酸化炭素排出量の削減といった問題を中心に、環境や気候への配慮と結びつけられることが多い話題です。しかし、今回のアン

ケート調査で明らかになったのは、アジア太平洋地域の旅行者は持続可能な旅行に対して総合的なアプローチを取っており、自らの旅行の傾向や行動、環境以外への影響について深く考えているということです。

持続可能な観光の最も重要な側面を選択するよう求められた設問では、多くの旅行者が経済的な問題 (46.7%) と社会的な問題 (41.3%) を選んでいます。約 3 分の 1 は、旅行が環境に与える負荷を最低限にとどめることは、持続可能な観光の最も重要な 2 つの側面に入ると答えており、これも相当数にのびります。ただし、現代の旅行者にとって持続可能性が何を意味するかの理解に関しては、多様な意見や見解が目立ちます。

図 8: さまざまな種類の意識

あなたにとって持続可能な観光の最も重要な側面は何ですか? 2 つまで選択してください。(%)



出典: エコノミストインパクト

年齢層ごとに考察すると、異なる 2 つの立場が明らかになります。1 つは Z 世代 (52.1%) とミレニアル世代 (46.8%) からなるグループで、観光の社会的側面が重要と考えています。一方、それよりも年上の X 世代 (47.8%) とベビーブーム世代 (50.3%) は、持続可能性の経済的側面に注目しています。

環境 (32.1%) や文化 (31.6%) の側面に対しては、すべての旅行者が少なくとも何らかの関心を示しており、旅行者は持続可能性を単一課題のトピックとして考えているのではなく、互いに影響し合う複数の側面が絡む問題として考えていることがわかります。

「地域文化の保護、環境の保全、旅行や観光に関連する社会的持続可能性に配慮する再生型旅行という取り組みは、コロナ禍以前から見られていました」と Ortiguera 氏は言います。

調査対象となった旅行者の多くは、観光の持続可能性は重要だと考えていますが、そのトピックの専門家とのインタビューでは、世代や文化の差による違いがあると指摘されています。例えば Higgins-Desbiolles 氏は、次のように述べています。「若い世代の方が責任や持続可能性に敏感で、もう少し上の世代やベビーブー

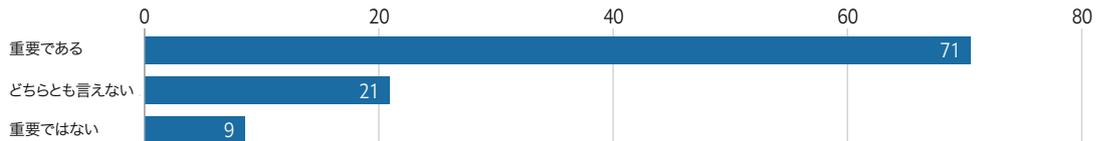
ム世代は、現状を楽しむことを重視しています」と。

同様に、韓国では、持続可能な観光の側面として、50.8% が文化の重要性に強く同意しています。これは、K-POP、テレビドラマ、映画など、輸出された韓国の地元文化が世界的な人気を得たことで韓国が手に入れたソフトパワーを考えれば、理にかなっています。Seul Ki Lee 氏 (LINC+ Project ディレクター、世宗大学准教授) は、「現在、観光は韓国の GDP に十分に貢献していません。しかし、韓国のポップカルチャーが世界市場で広く認識され、ますます人気を集め、いわゆる韓流ブームが起きていることを考えれば、観光は経済の原動力としての大きな可能性を秘めています」と述べています。

一方、フィリピン (81.9%)、マレーシアおよびインド (76.1%) の旅行者は、無駄をなくすことや環境への負荷が小さい食品を選ぶことが持続可能な旅行へのアプローチの重要な側面だと答えています。ミレニアル世代の旅行者 (74.7%) は、サステナブルで無駄が少ない食品を選択することに最も積極的なグループのようですが、このトピックの重要性については、圧倒的に意見が一致しています。

図 9: 切り離せない食と旅

環境的に持続可能な食品を選び、無駄をなくすこと (%)



出典: エコノミストインパクト

食と旅行は切り離せない関係にあり、食品はホスピタリティ業界の廃棄物の中でも突出していることを考えれば、この感情は特に重要です⁶。食は観光の中心でもあり、World Food Travel Association による 2016 年の研究によると、レジャー旅行者の 53% が食を旅の目的としており、多くの人が海外旅行でしたいこととして美食体験を挙げています⁷。

その結果、ある特定の地域や地方ならではの珍しい食体験と観光客を結びつけるアクティビティである「ガストロノミーツーリズム」が増加の一途をたどっています。ガストロノミーツーリズムは、観光客に新たな味や食べ物を紹介することだけでなく、地元産の農産物、文化、知識を持続可能な方法で後押しするサステナブルなスタイルの観光に地域経済を開放することを目的としています⁸。農業分野、特に農業地域においては、このスタイルの観光が重要で好ましい相乗効果をもたらします。

旅行の形を変えるテクノロジー

トラベルテクノロジーは、主として旅行会社の業務のデジタル化や新たな顧客層にリーチを拡大するための手段として、コロナ禍が始まる前からすでに急成長している分野でした。予約プラットフォームや価格比較サイトから、非接触型決済、チェックイン手続きや搭乗まで、テクノロジーが情報の分散や不便さを解消したこ

とで、旅行が手の届く気軽な楽しみになり、新たな利用者層が生まれました。

「テクノロジーによって、有益な情報が旅行者に即座に伝わります。この傾向を支えているアプリは今後ますます改良が進むでしょう。よりよいアプリケーションとハードウェアは、体験という観点からだけでなく、情報を広めやすくすることで、旅行を変えることができると思います」と Durband 氏は言います。

Ortiguera 氏によると、2023 年までに旅行販売の 69% がオンラインで行われ、オンラインでの旅行の売上高は 1 兆米ドルにものぼると推測されていました。もちろん、コロナ禍の発生に伴いそのような見通しは大幅に変わりましたが、デジタル化の勢いは衰える気配がありません。実際に旅行観光業界では、デジタル化が著しく進んでいます。その背景には、存在意義を保ち、旅行者の信頼を高め、渡航制限が解除されたら損失を取り戻そうと旅行会社が躍起になっているという事情があります。

今回のアンケート調査では、消費者の間でトラベルテクノロジーに対する強い支持があることが示されました。回答者の 10 人に約 9 人 (86.9%) が、「新しい革新的なテクノロジーは、持続可能な観光を可能にする」という点に同意しており、地理的な差や世代の違いを超えて圧倒的にポジティブな反応を得ています。

⁶ <https://www.hospitalitynet.org/news/4095679.html>

⁷ <https://seasidewithemily.com/sustainable-food-tourism/>

⁸ <https://ecotourism-world.com/gastronomy-tourism-in-a-sustainable-way/>

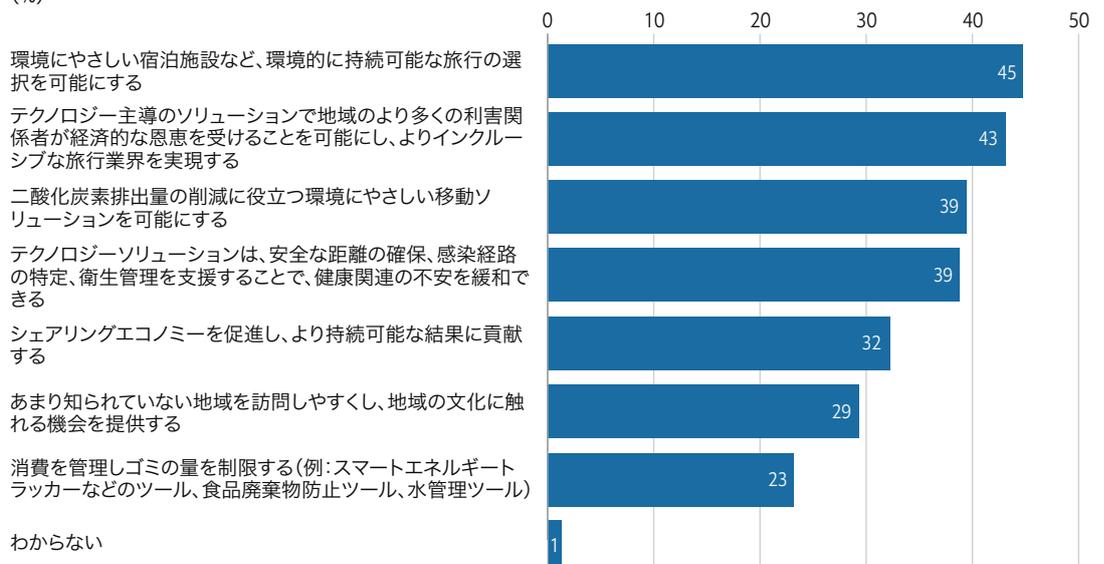
このことは驚くに値しません。テクノロジーは、旅行者や事業者の両者がコンシャストラベルを支援する決定を行ったり、そのようなオプションを選択したりするのに役立っています。Bhatnagar氏は、「テクノロジーのおかげで、サステナブルなツアーの検索、計画、実現が容易にできるようになりました。テクノロジーにより、旅行商品の比較サイトや時にはソーシャルメディアチャンネルを通じて、旅行者が現地のオペレーターやガイドと直接つながることができるようです。持続可能な旅行を扱う小規模企業

が必ずしもマーケティングチームを抱えているとは限りませんが、ソーシャルメディアチャンネルを利用して口コミを広めることはできます」と述べています。

革新的なテクノロジーが持続可能な観光を支援する方法はいくつもありますが、今回のアンケート調査回答者の多くは、テクノロジーのおかげで、環境に配慮した宿泊施設を利用する機会が広がる点を挙げています(44.7%)。

図 10: コンシャストラベラーの選択肢を増やすテクノロジー

革新的なテクノロジーは、持続可能な観光をどのような方法で支援できますか? 3 つまで選択してください。(%)



出典: エコノミストインパクト

サステナブルなイノベーションの促進

テクノロジーは、地域の利害関係者のより多くが経済的な恩恵を受けられるようにすることで、持続可能な観光をもっと多くの人々に開かれた旅行形態にするうえで役に立つ(43.1%)という声もあります。

今回行ったインタビューでは、テクノロジーによって旅行業界がすでに変容を遂げているさまざまな事例や方法を耳にしました。新しいテクノロジーは、旅行会社が食品廃棄物を管理

したり、資源を大量に消費するアクティビティを削減したりするうえで役立ちます。

渡航制限や健康上のリスクを回避するための新しいテクノロジーを試すことで、人々の旅行スタイルを意図せずに変化させている企業もあります。ますます一般的になりつつある1つの例が仮想現実を利用したツアーで、このようなバーチャルツアーでは、旅行者は自宅にいながら新たな体験ができます。

Higgins-Desbiolles氏は、バーチャル観光の可能性について次のように述べています。「ロックダウン中でも、世界とのつながりや関わりを持っているという感覚を提供することができます。それを収益化できれば、危機的な状況にあるツアーガイドや地域社会を救うことができます」

選択肢を増やすテクノロジー

テクノロジーには、誰にとっても選択肢が広がる計り知れない可能性があります。Higgins-Desbiolles氏は、テクノロジーは身体の不自由な人々にとって命綱であると考えています。例えば、バリアフリー対応の施設に関する情報にアクセスしやすくすることや、複合現実技術を通じてある場所を体験する機会を提供することができます。

今回のアンケート調査では、回答者の約3分の1が、遠く離れた地域を訪れ、地域文化のあまり知られていない側面に触れる手段としてテクノロジーを捉えています。例えば、ライブストリーミングのプラットフォームでは、ラサのポタラ宮殿のような伝統建築を手軽に見学できます。

Durband氏は、スマートフォンは旅行や観光の世界に長期にわたる大きな影響を与えており、その波紋は現在も続いていると語っています。彼は、定期的なリマインダーやアラートを通じ

て旅行者の認識を高めることで、スマートフォンを持続可能な旅行の推進役として利用する方法を提案しています。

「サステナビリティの問題の多くは、旅行者の認識不足が原因で起きています」と彼は言います。

新しいテクノロジーを取り入れた旅行については、全体的に年齢を問わず、前向きで好意的に受け入れられている傾向があります。しかし、テクノロジーの使用の受け止め方は、年齢層によって異なります。Z世代とミレニアル世代の多くは、地域の利害関係者に経済的な恩恵をもたらす、拡大するものとしてテクノロジーを捉えています。一方、ベビーブーム世代とX世代は、主に環境に配慮した宿泊施設にアクセスするためのツールとしてデジタルツールを捉えています。

持続可能な旅行の選択や決定を支えるものとして、テクノロジーが非常に重要であることは、評価してもし過ぎることはありません。10名中約7名(68.2%)は、テクノロジーのおかげで旅行の計画が立てやすくなることに同意しています。また、半数以上(56.7%)は、テクノロジーのおかげで旅行の際の二酸化炭素排出量について意識が高まると考えています。一方、テクノロジーは、持続可能な旅行のオプションや選択肢について知るうえで役に立つと考える回答者も3分の2います。

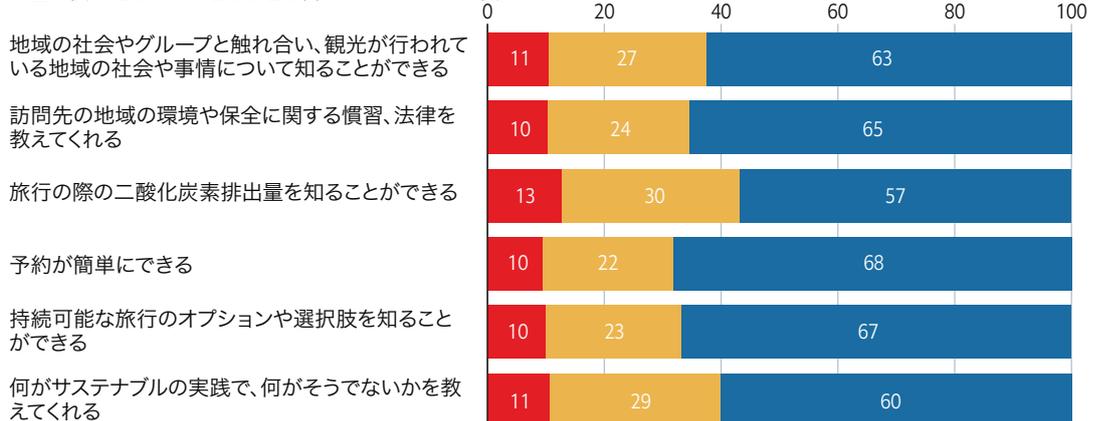
図 11: コンシャストラベルの選択を支えるテクノロジー

旅行の際に持続可能な物事を選択/決断するにあたり、テクノロジーはどの程度役に立ちますか?

各列で1つ選択してください。

(%)

■ 全く役立たない ■ どちらとも言えない ■ 大いに役立つ



出典: エコノミストインパクト

旅行事業者の観点からは、テクノロジーを活用し、人気の旅行先の地域社会や住民に良い影響を与えている企業の例がすでいくつかあります。Banerjee氏は、環境に優しくエネルギー効率のよいさまざまなイノベーションを利用してホームステイを提供する企業の例を挙げています。「これらはすべて、遠隔地の田園地帯に住む地元の起業家の生業となっています」と彼女は言います。

旅行の未来

過去2年間、観光旅行業界にとって特に厳しい時期が続いており、この状況が変わるまであとどのくらいかかるのかも不透明です。こうした困難な時期でもテクノロジーに大いに助けられています。さらに大きな変化が必要であることは明らかです。

気候変動、オーバーツーリズム、地域社会の圧力のような問題に対する関心の高まりは、旅行業界の従来通りのやり方に大きな変化をもたらすことを強いるでしょう。

今後旅行業界は、旅行のあり方全体を再構築する大きなチャンスを迎えます。一例として、旅行者は持続可能な旅行の実践を促進するための取り組みを支持しており、さらに重要なことには、その気持ちをお金という形で表すことをいとわない、ということがあります。半数以上(54.5%)は、持続可能な旅行の選択肢に多かれ少なかれ料金を上乗せで支払うことを惜しまないと答え、57.2%は環境や地域社会に悪影響を及ぼす旅行先やアクティビティは避けたいと答えています。

この結果から2つのことがわかります。1つ目は、旅行を体験するさまざまな方法を新たに導

入することで、旅行会社には新しい収入源を生み出すチャンスがあるということ。例えば、安定したテレビ会議システムを利用すれば、オフィスから離れた場所でも仕事ができるようになり、国外の目的地での「ワーケーション」の可能性が開けます。このようなスタイルは、今回のアンケート調査回答者のほぼ50%から強い支持を得ています。これは、旅行先で、その土地や隣人を大切に作る住民のように振る舞うよう旅行者に促す方法だとLee氏は考えています。

2つ目は、持続可能な観光に真剣に取り組む企業のブランドには、プラスの影響が及ぶということ。コンシャストラベルの選択肢が強く求められていることを考えれば、「サステナブルであることの証明となるものや信頼性を強化」することで、より多くの顧客を獲得できるというGoh氏の提案には真実味があります。

政府が主導するサステナブルな変革

同様に、持続可能な観光のインフラストラクチャーに集中投資を進んで行う政府は、消費者からもたらされる金銭的な見返りを徐々に受けることとなります。

私たちが話をした専門家も、旅行者や旅行会社といった他の利害関係者に最大の善意があっても、持続可能な観光を支えるしっかりとした基盤がなければ、持続可能な旅行は限界を迎えるかもしれないと警告し、政府の意志と行動の重要性を強調しています。

結局、十分な選択肢が用意されない限り、旅行者はサステナブルな旅行を選択できないのです。コンシャストラベルの普及は、奨励策や優待策のほか、環境に優しい公共交通機関、宿泊施設、体験などの誘因があるかどうかにかかっています。

世宗大学の Lee 氏は、観光業者だけでなく、自治体、農業、食品産業など、他の利害関係者によって行われるべき必要な出資や計画のハードルを指摘します。

アジア太平洋地域各国の政府は、持続可能な旅行を促進する重要な役割を果たしているという証拠もあります。例えば、Mekong Innovations in Sustainable Tourism ボードは、使い捨てプラスチック製品のような観光にまつわる問題を解決する新設企業への投資を続けています。フィリピンでは、遅れている農業にテコ入れし、オーバーツーリズムを少しでも解消する手段として、政府観光局が「農村観光」を積極的に推進しています⁹。

善意に基づく道

今回のアンケート調査の結果を通じて、旅行者は旅行の時期や方法をもっと意識したいと考えていることが明らかになりました。しかし、願望だけでは強い影響を与えるのに十分ではありません。政府、民間企業、旅行会社、個人が互いに協力しあい、持続可能な観光の変わらぬ価値を証明しなくてはなりません。

「インフラ、企業、政府が持続可能な観光を促進しなければ、どれだけ需要があっても意味がありません」と Dodds 氏は言います。彼女は、ろ過された水を買えない国々で、「衛生上の問題という理由で」ペットボトル入り飲料水を購入せざるを得ない観光客の例を挙げます。

今回のアンケート調査の結果とは異なりますが、業界全体および個人旅行者が長期的に大

きな変化をもたらすことができるかどうかについての疑念もあります。例えば Durband 氏は、持続可能な観光への関心が高まっているとはいえ、コロナ禍によりもたらされた意識の高い旅行のスタイルがずっと続くとは考えていないと言います。「以前過密状態だった観光地は、象徴的で有名な場所であるだけに再び混雑するでしょう。今後は、そうした場所をうまく管理する必要があります」と彼は言います。

反対に、現に存在するコンシャストラベラーは、今後の旅行のイメージを変えるために必要な基礎になっていると考える専門家も数人います。「私たちは本当に 2019 年の姿に戻りたいのでしょうか。私はすべてにおいてそうだとは思っていません。今は、方向を変えて開発を考え直す絶好の機会です」と Dodds 氏は言います。

「突き詰めると、持続可能性の維持は私たちだけの問題ではありません。今後のすべての世代にわたり物事を楽しんでもらえるよう、将来を見据えて考えることが大切なのです」と Higgins-Desbiolles 氏は語ります。

今回のアンケート調査では、旅行者の間に変化を望む気持ちや善意が十分にあることが示されました。今必要とされているのは、よりよい未来を現実にするための相互コミットメントです。「うまく事を進めれば、善意を最大限に生かすことができます」と Banerjee 氏は言います。観光業が一時停止状態にあり、コンシャスツーリズムへの注目度が高まっている今こそ変化を起こすのに最適なタイミングなのです。

⁹ <https://www.tripsavvy.com/sustainable-travel-trends-in-southeast-asia-5115393>

本情報の正確さの検証にはあらゆる努力を払っていますが、本報告書または本報告書に記載された情報、意見、結論に依拠したことに対して、エコノミストインパクトは一切の責任を負いません。本報告書に示された調査結果や見解は、必ずしもスポンサーの見解を反映したものではありません。

ロンドン

20 Cabot Square
London, E14 4QW
United Kingdom
電話: (44.20) 7576 8000
Fax: (44.20) 7576 8500
Eメール: london@eiu.com

ジュネーブ

Rue de l'Athénée 32
1206 Geneva
Switzerland
電話: (41) 22 566 2470
Fax: (41) 22 346 93 47
Eメール: geneva@eiu.com

ニューヨーク

750 Third Avenue
5th Floor
New York, NY 10017
United States
電話: (1.212) 554 0600
Fax: (1.212) 586 1181/2
Eメール: americas@eiu.com

ドバイ

Office 1301a
Aurora Tower
Dubai Media City
Dubai
電話: (971) 4 433 4202
Fax: (971) 4 438 0224
Eメール: dubai@eiu.com

香港

1301
12 Taikoo Wan Road
Taikoo Shing
Hong Kong
電話: (852) 2585 3888
Fax: (852) 2802 7638
Eメール: asia@eiu.com

シンガポール

8 Cross Street
#23-01 Manulife Tower
シンガポール
048424
電話: (65) 6534 5177
Fax: (65) 6534 5077
Eメール: asia@eiu.com